

屋久島初記録のナガサキフエダイ

畑 晴陵¹・本村浩之²¹ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-24 鹿児島大学大学院連合農学研究科² 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

■ はじめに

ヒメダイ属魚類 *Pristipomoides* は日本近海において 8 種が知られ、鹿児島県においてはその全種の分布が標本に基づき記録されている (桜井, 2014; 小枝ほか, 2015; Hata and Motomura, 2016a, b, 2017; Hata et al., 2017; 小枝, 2017). そのうち、ナガサキフエダイ *Pristipomoides multidentis* (Day, 1871) は最大で体長 70 cm, 全長 90 cm に達する大型種で (Senta and Tan, 1975; Allen, 1985; Anderson and Allen, 2001; 島田, 2013), 美味しい魚として知られる (大富, 2011). 本種は日本国内においては山陰地方から琉球列島にかけて分布するとされるが (島田, 2013), 沖縄島近海における水揚げは少なく, 稀な種とされる (篠原, 1966; 三浦, 2012). 鹿児島県においてもその記録は少なく, 奄美大島と種子島からのものに限られていた (藤山, 2004; 大富, 2011; 畑・本村, 2016b).

2017 年 2 月 21 日に屋久島近海からナガサキフエダイが採集された. 本研究は同海域における本種の標本に基づく初めての記録となるため, ここに報告する.

■ 材料と方法

計数・計測方法は Shinohara (1963) にしたがっ

Hata, H. and H. Motomura. 2018. First record of *Pristipomoides multidentis* (Perciformes: Lutjanidae) from Yakushima island, Osumi Islands, Japan. *Nature of Kagoshima* 44: 341–345.

✉ HH: the United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University, 1-21-24 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: k2795502@kadai.jp).

Published online: 16 Apr. 2018

http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_044/044-049.pdf

た. 標準体長は体長と表記し, 体各部の計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm までおこなった. ナガサキフエダイの生鮮時の体色の記載は, 固定前に撮影された屋久島産の 1 標本 (KAUM-I. 97959) のカラー写真に基づく. 標本の作製, 登録, 撮影, および固定方法は本村 (2009) に準拠した. 本報告に用いた標本は, 鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM: Kagoshima University Museum) に保管されており, 上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている.

■ 結果と考察

Pristipomoides multidentis (Day, 1871)

ナガサキフエダイ (Fig. 1)

標本 KAUM-I. 97959, 体長 347.0 mm, 鹿児島県大隅諸島屋久島近海, 水深 50–100 m, 2017 年 2 月 21 日, 釣り (鹿児島市中央卸売市場魚類市場にて購入), 畑 晴陵.

記載 背鰭棘数 10; 背鰭軟条数 11; 臀鰭棘数 3; 臀鰭軟条数 8; 胸鰭軟条数 16; 腹鰭棘数 1; 腹鰭軟条数 5; 側線有孔鱗数 50; 前鰓蓋骨上の鱗列数 6; 背鰭前方鱗数 14; 側線上方横列鱗数 7; 側線下方横列鱗数 13.

体各部の体長に対する割合 (%) : 体高 31.1; 頭長 33.1; 吻長 11.5; 上顎長 14.0; 眼隔域幅 8.8; 眼窩径 8.4; 尾柄高 10.1; 胸鰭長 30.5; 眼窩骨幅 5.6; 背鰭第 4 棘長 14.3; 臀鰭第 3 棘長 7.6.

体は前後方向に長い楕円形で, やや側扁し, 体高は背鰭起部で最大. 吻端から背鰭起部にかけての体背縁は緩やかに上昇し, そこから尾鰭基底上端にかけて緩やかに下降する. 体腹縁は下顎先端から腹鰭起部にかけて緩やかに下降し, そこから

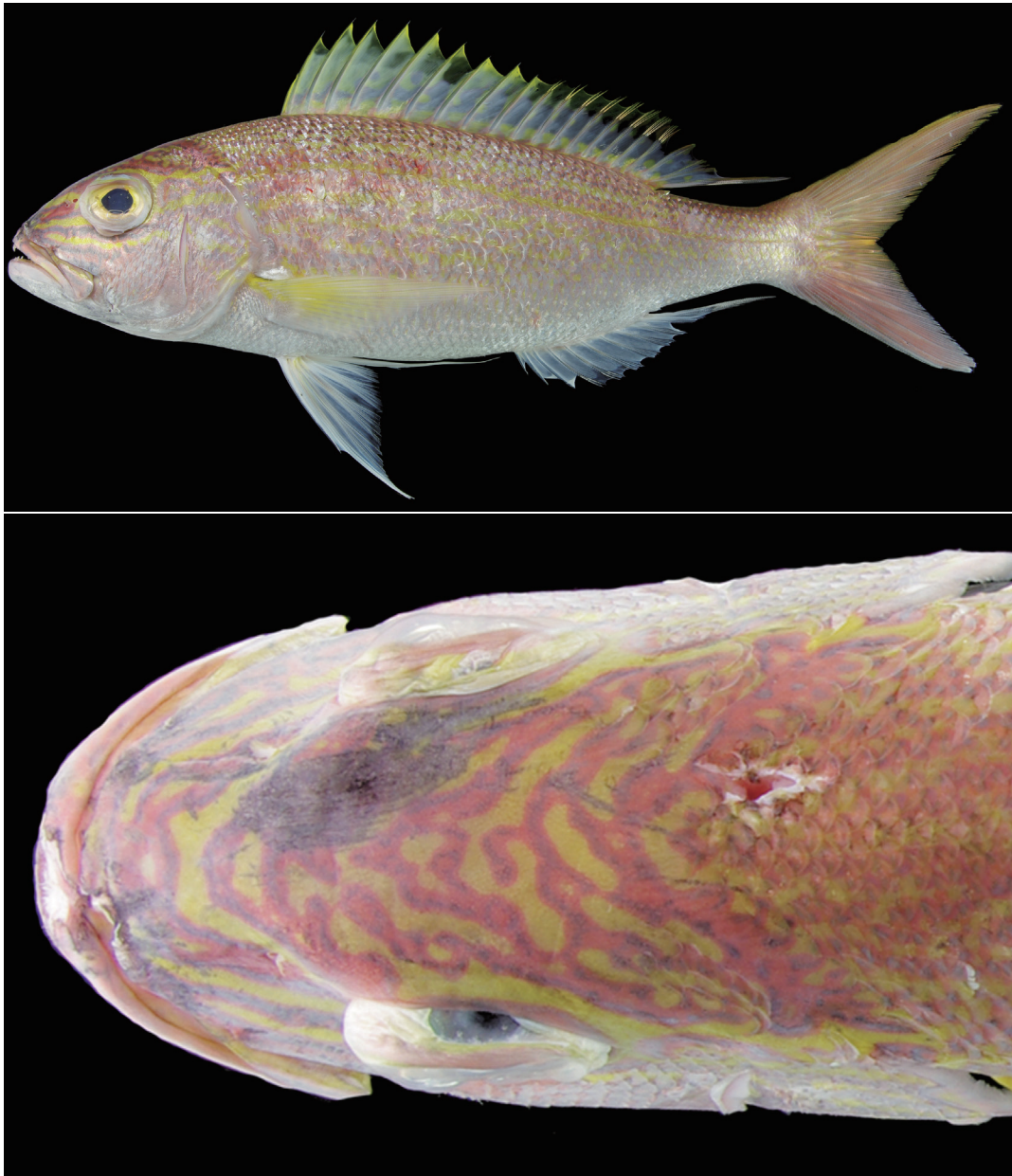


Fig. 1. Lateral and dorsal views of body and head, respectively, of fresh specimen of *Pristipomoides multidentis* (KAUM-I. 97959, 347.0 mm SL, Yaku-shima island, Osumi Islands, Kagoshima Prefecture, Japan).

臀鰭起部にかけては体軸と平行となり，臀鰭起部から尾鰭基底にかけて緩やかに上昇する．胸鰭基底上端は鰓蓋後端よりもわずかに前方，胸鰭基底下端は腹鰭起部よりも僅かに前方にそれぞれ位置する．胸鰭後端は尖り，肛門に達せず，背鰭第10棘起部直下に達する．腹鰭起部は背鰭起部よりも僅かに前方，腹鰭基底後端は背鰭第3棘起部

直下にそれぞれ位置する．ただ腹鰭の後端は肛門に達せず，背鰭第10棘起部よりもわずかに後方に達する．背鰭起部は腹鰭起部よりも僅かに後方，背鰭基底後端は臀鰭基底後端直上にそれぞれ位置する．背鰭棘は第4棘が最長．棘部の鰭膜は僅かに切れ込むが，背鰭背縁は深く凹まない．背鰭軟条は全て分枝する．背鰭軟条部はほぼ同じ

高さ。背鰭軟条のうち最長のものは最後軟条で、糸状に伸長する。臀鰭起部は背鰭第1軟条起部よりもわずかに後方、臀鰭基底後端は背鰭基底後端直下にそれぞれ位置する。臀鰭棘は第3棘が最長。臀鰭軟条は全て分枝し、最長のものは最後軟条で、糸状に伸長する。尾鰭は二叉型で、深く湾入する。肛門は正円形で、臀鰭起部前方に位置する。眼、瞳孔はともにわずかに前後方向に長い楕円形。眼隔域は平坦。吻部側面は溝がなく、平坦。鼻孔は2対で前鼻孔と後鼻孔は互いに近接し、眼の前縁前方に位置する。両鼻孔はともにわずかに前後方向に細長い楕円形。前鼻孔の後縁には皮弁をそなえる。体は剥がれにくい楕円に被われ、各鰭、両顎、吻部、眼の周囲、前鰓蓋骨後部は無鱗。背鰭前方鱗被鱗域の先端は眼窩後縁よりも後方に位置し、前縁は楔形。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状を呈し、鰓蓋後縁は円滑。頭長は眼窩骨幅の5.9倍。口裂は大きく、上顎後端は眼の先端よりも後方に達するが、瞳孔の先端よりも前方に位置する。前上顎骨は突出可能で、吻部とつながらない。上顎前部には1対の牙状歯をそなえる。上顎側部の外側には鋭い円錐歯が1列に並び、内側には絨毛状歯が密生し、歯帯を形成する。鋤骨歯と口蓋骨歯はともに絨毛状。鋤骨の歯帯は三角形を呈し、後方に伸長しない。下顎には1列の円錐歯が並ぶ。舌上は無歯。擬鰓上にフィラメント状の鰓弁を有する。鰓耙は細長く、棒状。側線は完全で、鰓蓋上部後方から尾鰭基底にかけて、体背縁と平行にはいる。

色彩 生鮮時の色彩 体背面から体側上部にかけては紫がかった淡い桃色を呈し、眼の直後から尾鰭基底にかけて、瞳孔径よりも細い多数の黄色縦帯がある。側線は黄色に縁取られる。体側には淡青色斑が多数散在する。体側下部から体腹面は一樣に銀白色。頭部側面には吻端から眼にかけて2本、前鰓蓋骨上部にかけて1本の計3本の黄色縦帯がある。頭部のそれぞれの黄色縦帯は暗青色縦帯に縁取られる。前鰓蓋骨後縁上部から鰓蓋後縁上部にかけて瞳孔よりも細い3本の黄色縦帯がある。鰓蓋下部は一樣に淡桃色。眼隔域背面には黄褐色の虫食い模様と、それらを縁取るように暗青色斑が多数ある、これらの黄色斑と暗青色斑

は、左右方向に長い、破線状の多数のV字型の斑紋を形成する。吻部背面には左右方向に長いV字状黄色帯が2本あり、それらはいずれも暗青色に縁取られる (Fig. 2)。背鰭は一樣に明るい黄色を呈し、中央部に瞳孔よりも幅の広い紫色縦帯がある。胸鰭上部と基底部は黄色を呈し、下部は白色半透明。腹鰭と臀鰭は一樣に白色。尾鰭は一樣に紫がかった桃色を呈し、上葉は黄色みがかかり、尾鰭下縁は白色。瞳孔は青みがかかった黒色を呈し、虹彩は金色。前縁を除いて、眼は鮮やかな黄色に縁取られる。

固定後の色彩 体背面から体側上部にかけての体側は紫がかった灰色を呈し、体腹面は一樣に鈍い銀色となる。体側の黄色斑は一樣に消失し、暗青色斑は淡い褐色斑となる。各鰭は一樣に乳白色となる。

分布 紅海からサモア諸島にかけてのインド・太平洋に広く分布する (Senta and Tan, 1975; Allen, 1985; Anderson and Allen, 2001; 島田, 2013)。日本国内では山陰地方、九州北岸、長崎、種子島、および琉球列島 (Temminck and Schlegel, 1843; Jordan et al., 1913; 篠原, 1966; 具志堅, 1972; 藤山, 2004; 島田, 2013; 畑・本村, 2016b) から記録されていた。本研究により、屋久島近海における分布も確認された。

備考 屋久島産の標本は、背鰭と臀鰭の各軟条は最後軟条がそれぞれ最長であり、糸状に伸長すること、眼隔域が平坦であること、鋤骨歯と口蓋骨歯がともに絨毛状であること、胸鰭が吻部よりも著しく長いこと、吻部側面には溝がなく、平坦であること、背鰭は10棘11軟条からなり、背縁が深く切れ込まないこと、背鰭、臀鰭、および主上顎骨が被鱗しないこと、前上顎骨が突出可能で吻部とつながらないことなどが、Allen (1985) と Anderson and Allen (2001) によって定義された *Pristipomoides* 属の標徴と一致した。また、側線有孔鱗数が50であること、頭部側面には吻端から眼にかけて2本の青色斑に縁どられる黄色縦帯があること、生時、吻部背面に左右方向に長いV字状黄色帯が2本あることなどが Allen (1985) や Anderson and Allen (2001)、島田 (2013) の報告し

た *Pristipomoides multidentis* の特徴とよく一致したため、本種と同定された。

Allen (1985) や Anderson and Allen (2001), 島田 (2013) は本種の標徴として、体長 15 cm, 25 cm, 40 cm の個体ではそれぞれ頭長が眼下骨幅の 7.0, 5.5, 4.0 倍であるとし、その割合が徐々に低下することを示唆した。しかし、本研究の記載標本は体長 347.0 mm であるにも関わらず、頭長は眼下骨幅の 5.9 倍と、上記の 3 報告で報告された体長 25 cm の割合よりも大きい。しかし、頭長の眼下骨幅に対する割合は彼らの示した値よりも変異が大きいことが畑・本村 (2016b) によって報告されており、本研究においても種内変異と判断した。

ナガサキフエダイの日本における分布は、畑・本村 (2016b) によって詳述されており、鹿児島県内における記録はこれまで種子島と奄美大島からのものに限られていた (藤山, 2004; 大富, 2011; 畑・本村, 2016b)。また、本種は屋久島の魚類相を包括的に報告した Motomura et al. (2010) や Motomura and Aizawa (2011), および Motomura and Harazaki (2017) にも記録されていない。したがって、記載標本は屋久島における本種の標本に基づく初めての記録となる。なお、標本としては残されていないものの、記載標本は 15 個体ほどのナガサキフエダイと同時に水揚げされており、群れで出現したものと考えられる。また、第 1 著者は 2016 年から 2017 年にかけて鹿児島市中央卸売市場魚類市場において、本種が種子島や奄美大島から多数水揚げされているのを頻繁に目撃しており、薩南諸島に多数のナガサキフエダイが頻繁に出現していることがうかがわれる。

■ 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり、原口百合子氏をはじめとする鹿児島大学総合研究博物館ボランティアの皆さまと同博物館魚類分類学研究室の皆さまには適切な助言を頂いた。標本の採集に際しては、田中水産の田中 積氏ならびに鹿児島市中央卸売市場魚類市場の関係者の皆様にご多大なご協力を頂いた。以上の方々に謹んで感謝の意を表

する。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は JSPS 研究奨励費 (DC2: 29-6652), 笹川科学研究助成金 (28-745), JSPS 科 研 費 (19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265), JSPS 研究拠点形成事業—B アジア・アフリカ学術基盤形成型, 国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」, 文部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」, および鹿児島大学重点領域研究環境 (生物多様性・島嶼プロジェクト) 学長裁量経費の援助を受けた。

■ 引用文献

- Allen, G. R. 1985. FAO species catalogue. Vol. 6. Snappers of the world. An annotated and illustrated catalogue of lutjanid species known to date. FAO Fisheries Synopsis, 6: 1–208.
- Anderson, W. D. and Allen, G. R. 2001. Lutjanidae Snappers (Jobfishes). Pp. 2840–2918, in Carpenter, K. E. and Niem, V. H. (eds.) FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific. Vol. 5. Bony fishes part 3 (Menidae to Pomacentridae). FAO, Rome.
- 藤山萬太. 2004. 私本 奄美の釣魚. 藤山萬太, 奄美. 179 pp.
- 具志堅宗弘. 1972. 原色沖縄の魚. 琉球水産協会事務局, 那覇. 247 pp.
- Hata, H., Iwatsubo, H. and Motomura, H. 2017. First specimen-based records of *Pristipomoides auricilla* (Perciformes: Lutjanidae) from the Satsunan Islands. The Biological Magazine Okinawa, 55: 19–26.
- Hata, H. and Motomura, H. 2016a. First specimen-based records of *Pristipomoides flavipinnis* (Perciformes: Lutjanidae) from the Tokara and Amami islands, Japan. South Pacific Studies, 36 (2): 103–110.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2016b. 種子島から得られたナガサキフエダイ *Pristipomoides multidentis*. Nature of Kagoshima, 42: 225–229.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2017. 鹿児島湾から得られたフエダイ科魚類パラヒメダイ *Pristipomoides typus*. 南紀生物, 59 (1): 67–70.
- Jordan, D. S., Tanaka, S. and Snyder, J. O. 1913. A catalogue of fishes of Japan. Journal of the College of Science, Imperial University, Tokyo, 33 (1): 1–497.
- 小枝圭太. 2017. フエダイ科. Pp. 163–167. 岩坪洗樹・本村浩之 (編), 火山を望む甕海 鹿児島湾の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 鹿児島・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 小枝圭太・前川隆則・本村浩之. 2015. 奄美大島から得られたシマチビキ *Pristipomoides zonatus*. Nature of Kagoshima, 41: 111–114.

- 三浦信男. 2012. 美ら海市場図鑑 知念市場の魚たち. ウェーブ企画, 与那原. 140 pp.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. (<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>)
- Motomura, H. and Aizawa, M. 2011. Illustrated list of additions to the ichthyofauna of Yaku-shima Island, Kagoshima Prefecture, southern Japan: 50 new records from the island. *Check List*, 7 (4): 448–457.
- Motomura, H. and Harazaki, S. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes of Yaku-shima island in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 129 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 9: 1–183.
- Motomura, H., Kuriwa, K., Katayama, E., Senou, H., Ogihara, G., Meguro, M., Matsunuma, M., Takata, Y., Yoshida, T., Yamashita, M., Kimura, S., Endo, H., Murase, A., Iwatsuki, Y., Sakurai, Y., Harazaki, S., Hidaka, K., Izumi, H. and Matsuura, K. 2010. Annotated checklist of marine and estuarine fishes of Yaku-shima Island, Kagoshima, southern Japan. Pp. 65–247 in Motomura, H. and Matsuura, K. (eds.) *Fishes of Yaku-shima Island – A World Heritage island in the Osumi Group, Kagoshima Prefecture, southern Japan*. National Museum of Nature and Science, Tokyo.
- 大富 潤. 2011. 九州産 食べる地魚図鑑. 南方新社, 鹿児島. 255 pp.
- 桜井 雄. 2014. フェダイ科. Pp. 230–239. 本村浩之・松浦啓一 (編), 奄美群島最南端の島 与論島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島, 国立科学博物館, つくば.
- Senta, T. and Tan, S.-M. 1975. On *Pristipomoides multidentis* and *P. typus* (family Lutjanidae). *Japanese Journal of Ichthyology*, 22: 68–76.
- 島田和彦. 2013. フェダイ科. Pp. 913–930, 2001–2004. 中坊徹次 (編). *日本産魚類検索 全種の同定*, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- Shinohara, S. 1963. Description of the new lutjanid fish of the genus *Pristipomoides* from the Ryukyu Islands. *Bulletin of Science and Engineering Division, University of Ryukyus. Mathematics and Natural Sciences*, 6: 49–53.
- 篠原士郎. 1966. 琉球産フェダイ科魚類の形態・分類ならびに分布に関する研究. *琉球大学文理学部紀要 理学編*, 9: 179–301.
- Temminck, C. J. and Schlegel, H. 1843. *Pisces part 1*. Pp. 1–20 in von Siebold, P. F. (ed.) *Fauna Japonica. Lugduni Batavorum, Leiden*.